

ワークショップの成果

5 6つの提案

ワークショップの「老後も住みつけられるまちづくり」の6つの提案内容を簡単にまとめてみました。

1 未来の地域社会像・太子堂2000年

学生を主体としたグループの提案で、太子堂の将来の人口推計を行い、人口減少と高齢者の割合が多くなるという予測結果をグラフにまとめたものです。また予測される問題点を整理して、その解決の方法として、3世代が同居できる「ひしもちの家」が提案されました。

2 生きがいを拓くコミュニティセンター

おとしよりのつばやきを収集するとともに寝たきり高齢者などの訪問を行い、介護のあり方を検討しました。各世代が集える居酒屋、露天風呂、リハビリ（リハビリ+レクリエーション）のある、コミュニティセンターが提案されました。提案には誰もがいつでも参加できる、10分ボランティアなどの企画も盛り込まれました。

3 素敵な生活スタイル

元気で生き生きと暮らしているお年寄りに、ヒアリングしてレポートにまとめました。その中か



2 生きがいを拓くコミュニティセンターの提案



4 都市共棲住宅・新太子堂物語のはじまりの提案



6 レレレのおじさんのいるまちの提案

ら「幅広い年代層の人たちと交流する」「好奇心旺盛でチャレンジ精神をもつ」など、老後の素敵な生活スタイルが提案されました。

4 都市共棲住宅・新太子堂物語のはじまり

このグループには建築家が多く、地区内の住宅供給公社住宅の建て替えを、高齢化社会に対応させるとともに、地区全体の住環境整備のタネ地として活用。さらに地区の建て替えの相談にのる「まちづくりハウス」が提案されました。

5 レレレのおじさんのいるまち

天才バカボンにでてくるおじさんのように、まちを行く人に気軽に声をかける人が登場できる、舞台としてのまちのあり方が検討されました。安心して憩える木やベンチのある「みち」や、立ち話のできる「みせ」が提案されました。

6 楽働クラブ

このグループはおとしよりが中心ですが、老後におとしよりの知識、経験、技術、仕事、趣味などが活用できるようなネットワークが提案されました。拠点となる「楽働ハウス」の場として、参加者自ら自分の家の開放を提案したもので、より現実味のある内容となりました。

参加者の声

立花鈴子さん(写真右)、阿部貴子さん(写真左)(世田谷保健所勤務)

今回、このワークショップに参加し、最終的なまとめまでの一連の流れを経験できたことは、大変有意義なものでした。

実際にそのまちで暮らしている人々が、まちづくりを考えるということは、これほど当たり前のように難しいことはないのではないのでしょうか。それを成し遂げた地域の住民パワーと参加者のパワーには改めて感心しました。

保健婦として今後も地域の皆様と協力できるよう頑張りたいと思います。



多くのひとの前で研究成果を堂々と発表した姿はすばらしかった。今まで経験したことのない方が多く画期的だった。これからの課題は、6つの提案を整理して、住民のボランティアでできるもの、行政が住民と相談し実施するものと区別して早急に実行したいものである。4ヶ月にわたる長いあいだ、知らない同志が親密になり交流の輪は広がった。これからこの友情をどうつなげていくかが課題である。

橋本一雄さん(三宿1丁目在住)



まちづくりに興味があったので、丁度よい機会だと軽い気持ちで参加を決めたのですが、一日目に書いた「生活史」を見て、自分が将来に対して漠然としか考えていないことに改めて気づき、先行不安を感じました。回を重ねるにつれ、高齢者問題は高齢者だけの問題ではないと、身近なこととして考えられるようになったこと、そして普段交流の少ない年代の方とお話できたことは、私にとって貴重な経験となりました。

横山友子さん(練馬区三原台在住)



'90 SETAGAYA
RELAY EVENTS
NEWS

まちづくりハウス
まちづくりワークショップ

老後も住みつけられるまちづくり提案

「老後も住み続けられる、住み続けたいと思うまち」のあり方を提案するために、このワークショップは太子堂地区、三宿地区の住民有志によって自主的に企画されたものです。

地域住民とともに広く参加者を公募して4ヶ月にわたるワークショップを行いました。参加者数は73名、20代から80代までの老若男女が集い、学び、語り合いながら、おとしよりが地域のなかで生き生きと暮らしていくことができるようなまちの提案づくりが行われました。

Workshop

Proposals for Making a Community where Senior Citizens can Continue to Live a Full Life

Our relay event No.8-2 was a workshop on proposals for making a community where senior citizens can continue to enjoy a full life. The event was planned by residents of the Taishido and Mishuku areas, who put forward concrete ideas for the creation of a community which allows the aged to live an active life in our currently aging society. The 73 participants, who came mainly from these areas, were divided into 6 groups. These groups held 12 workshops over a period of 4 months. At the final workshop on November 18, each group announced its proposals, which were then judged by a committee. All the groups put forward original and concrete proposals, such as ways in which senior citizens might continue to enjoy working and community centers to provide them with fuller and more purposeful lives. The judging committee was full of praise for this kind of community activity and expressed the strong hope that the ideas would be implemented.



提案を発表する小林松太郎さん。(三宿1丁目在住)

【長寿社会と環境】

Redefining Health and Longevity
CONSIDERING URBAN DESIGN FOR SENIORS

- 1 高齢者のさまざまな知恵を活かす
- 2 歴史を大事にし、未来に伝える
- 3 多世代がいっしょに活動する

Now in its third year, '90 Setagaya Relay Events will include 13 different events related to the theme, "Considering Urban Design for Seniors". We look forward to seeing a great many participants.



企画にあたって

1 地域から発想すること

このワークショップの企画は、高齢化社会の問題をまちづくりという視点から促るところから発想されました。太子堂、三宿というフィールドを対象として、住民の立場から「老後も住み続けられるまちづくり」提案をしてみようと企画されたのです。

これまでのまちづくりは行政が主体となっていたのですが、これからのまちづくりは住民が中心となって進めて行くことが必要です。このワークショップはそのきっかけのひとつとなつてはならないでしょうか。

第1回 7/14



参加者の自己紹介をかねての「人生100年の生活史——過去・現在・未来」の確認。お互いにどのような人生を歩んで来たか、今後どう生きるかを聞き取り、年表に記録し、報告しあいました。

第2回 7/21

参加者どうし、お互いに80才になった顔を想像しながら「80才の似顔絵」を描きました。そのあと実際に車いすを使い、高齢者の立場に立ってまちを点検、問題点が提起されました。



イベントの内容

2 12回のワークショップ

平成2年4月に太子堂地区、三宿地区のまちづくり協議会の有志の方々とそれに協力する人びと、18名が集まり実行委員会を組織し、2ヶ月間、企画内容を検討しました。企画途中で、地区のおとしよりの意見を聞くために、自主的なアンケート調査やヒヤリング調査を実施しました。

地域の住民だけではなく広く参加者を公募し、73名の人たちが集まり、ワークショップはスタートしました。

第3回 8/4



各自が問題意識として抱えているテーマを「提案プラカード」に書き、類似のテーマを持った仲間を見つけて話し合いました。

第4回 9/2



太子堂のきつねまつりに参加。おとしよりのつぶやきを記録した「つぶやきの壁」を展示し、まちの人びとと話し合いました。ゲストで平均年齢75才の「館ちゃん劇団」が登場し、大いに盛り上がりました。

第5回 9/22

都立大学助手の秋山哲男先生のガイドで梅丘ふれあいのプロムナードを見学し、設計時の細かい配慮を学ぶことができました。



第6回～第11回 9/29～11/10



テーマを分けて6グループが誕生。各グループで自主的に施設の見学や調査、ヒアリング、討議といった活動を行い、提案をまとめました。

まちづくりは人づくり
いつも心は
ホットでいたいですね。

第12回 11/18



写真右から奥田道大、延藤安弘、高橋公子、世古一穂、小原信正審査員。



三軒茶屋のしゃれなあどホールでの発表会、審査会では、会場いっぱいにワークショップの記録と提案を展示しました。スライドを使って各グループの提案を発表し、審査員の先生方による講評を受けました。

C O L U M N

ベートーベンのシンフォニーを聞いたような感動の深い半日だった。 延藤安弘先生(熊本大学教授)

6グループの提案全体は、現状と未来、マクロとミクロ、ものづくり(ハード)とくらしづくり(ソフト)、おとしよりと子どもが、相互に補い合い、響き合い、溶け合っている絶妙な曲想をなしていた。その秘密は、ワークショップのすすめ方の類まれな創意工夫の連続にあった。人生100年の生活史を語る自己紹介、似顔絵かき、つぶやきシートづくり、まちづくりプラカード、討論などを経て、6つのグループ形成とテーマ設定がなされたことが、「交響乐的」まちづくり学習の仕掛けとなつたのではないかと感じる。もしあらかじめテーマ、方法が与えられていたら、各グループとメンバーの個性的発想と表現はすくい上げられなかったのではないだろうかと思う。

ひとりひとりの知恵、技、芸を出し合い、共振しつつ何かを創りあげていくプロセスの楽しさは、他に替え難い体験である。このワークショップの深化と拡がりを期待する。



参加者名

(一般公募によって参加された方)

阿部 貴子・岡田 康雄・田中 新一
池田 大輔・小川 雅之・長田 全
伊藤 幸子・小川 秀俊・長田 全
小川 幸子・小川 秀俊・長田 全
木村 幸子・小川 秀俊・長田 全
本間 幸子・小川 秀俊・長田 全
高橋 幸子・小川 秀俊・長田 全
谷川 幸子・小川 秀俊・長田 全
中山 幸子・小川 秀俊・長田 全
西川 幸子・小川 秀俊・長田 全
原 幸子・小川 秀俊・長田 全
矢野 幸子・小川 秀俊・長田 全

(まちづくり協議会メンバー)

相原 次郎・岩井 野・宇田 誠次郎
小林 大輔・西野 幸子・水田 登子
佐藤 由起子・寺野 幸子・保藤 朝利
平山 正三・藤田 幸子・保藤 朝利
目良 松男・安田 幸子 (計14名)

(実行委員会メンバー)

井上 藤部・卯月 盛夫・梅津 政之
大戸 幸子・大原 和一・木下 勇
大見 幸子・大原 和一・木下 勇
張 俊彦・寺野 幸子・保藤 朝利
中村 幸子・寺野 幸子・保藤 朝利
橋本 幸子・寺野 幸子・保藤 朝利
※協議会メンバー含む (計18名)

イベントが終わって

3 さまざまなふれあいから

11月18日、最後のワークショップでの提案の発表会、審査会では、三軒茶屋のしゃれなあどホールに約150名の人が集まり、熱気あふれるなかでの発表会となりました。

会場いっぱい展示されたワークショップの記録と提案内容が、このワークショップの活動の大きさを示しているように感じました。休憩時間も話し合いの輪が広がるなど、大変有意義なひとときとなりました。

文字どおり老若男女が集い、長期間にわたって話し合いを続け提案にまとめた過程にまず意義があったといえましょう。また、提案内容も今後の高齢化社会のまちづくりに一石を投じたようです。

今後の展開

4 新しい輪をひろげつつ

このワークショップは、企画から運営にいたるまで太子堂、三宿地区の住民の自主的な活動によって推進されました。また、一日だけのイベントではなく4ヶ月間におよぼワークショップとして、地区住民、区民を越えて各地から多数の参加のもとで実施されました。

従って、今後の展開も、住民の地域での活動によるところが大きいわけですが、より社会的にアピールするために、すべての記録を出版していくことが検討されています。新しい多くの人々との出会いを大切に今回出された提案を実現に向けて、さらに輪を広げていきたいと思つています。

'90まちづくりリレーイベント
'90 SETAGAYA
RELAY EVENTS
NEWS

NO.

8

2

まちづくりハウス
まちづくりワークショップ

老後も住みつづけられる
まちづくり提案